

じゅんさい池 東池自然環境保全作業実施報告について

1 目的

園芸スイレン刈取などの環境保全作業を行う際に、泥の中にある枝、倒木や、園芸スイレンの茎などが池を移動する際の妨げとなっているため、これを取り除き作業性の向上を図る。

2 作業範囲 東池内の下記太線内の範囲。池の縁からの幅は2～3m。



3 作業実施日 12月20日(月)

4 作業計画

11月中旬から建設課の既設ポンプ設備で水位を下げ、更に別途用意した水中ポンプ(2インチ100V)で水位を下げた後、当日はスケルトンバケットを装着したバックホウ(0.2m³)で乗り入れ、また、人の手作業により届く範囲で泥の中にある園芸スイレンの根、茎、木の枝などの除去を行う。

5 実施結果

- ・園芸スイレンの根と茎、木の枝が除去できた。特に園芸スイレンの根が多かった。
- ・雨が多かったため、想定していたより水位が下がらなかった。(常設の水位計で9cm)
- ・水の中にバックホウを乗り入れると機械の油が池に流出するため池の縁までの乗り入れとなった。(業者による説明)
- ・池の底が想定以上に柔らかいことがわかったため、仮に池の底が露出した場合、土嚢と板により沈まない対策をすれば、更に池に向かって乗り入れはできるかもしれないが、土嚢についてはかなりの量が必要と考えられ回収も困難である。ほかに栈橋の設置が考えられるが池の底が柔らかいため可能かどうかは不明。もし、池の中でバックホウが大きく沈んだ場合、泥に油が付着する可能性がある。(業者による説明)
- ・今回の作業範囲以外の場所は、園路沿いの多くに土留めがされており、そのままバックホウを乗り入れたり、園路を移動すると土留めが壊れてしまう可能性がある

ため、実施する場合は土留めを保護するための養生作業が必要。(業者による説明)

- ・頭上に木の枝があるため、バックホウが通過できない場所がある。
- ・スケルトンバケットを使用した場合、小さい枝や根等は網目からこぼれ落ちてしまう。
- ・今回の作業内容であれば人による手作業でも実施可能であったが、大きな倒木等を引き上げる場合には重機が必要。なお、今回、倒木は存在しなかった。(業者による説明)

6 今後実施する場合の考察

- ・今回実施した範囲以外の場所についてバックホウを使用し実施する場合は、土留めの養生が必要であり、そのための費用が発生する。一方、人による手作業については時間がかかるが費用は比較的少なく済む。
- ・ポンプにより水位を下げる場合は、雨が少ない時期に行うことが効率的である。(昨年6月に水位計で0cmの実績あり)

<作業の様子>



じゅんさい池 ミシシippアカミミガメ駆除作業について

1 場 所 下記の丸数字が設置した地点。



2 日 時

地点① 10月14日～10月28日

地点② 10月22日～10月28日

地点③ 11月19日～12月 2日

3 結 果

ミシシippアカミミガメ、クサガメとも捕獲なし。

4 今後実施する場合の考察

甲羅干しのために上がってくるカメがほとんどいなかったと推察される。カメが活発に動く時期を考え設置したほうがよいと考えるが、専門家の意見等も参考にし実施したほうがよいと思われる。

<罠設置の様子>

